

令和6年度 山形県立新庄神室産業高等学校 学校評価書

1 教育目標(めざす生徒像) (1)幅広い知識と技術を身に付け、地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成 (2)柔軟な思考とたゆまぬ実践により、真理を探究する人間の育成 (3)個性を尊重し、豊かな感性と創造性に富む人間の育成 (4)心身ともに健全で、正義感あふれるたくましい人間の育成	2 めざす学校像 (1)規範意識を高めるとともに、社会性を育み自ら進んで行動する力を育成する学校 (2)基礎学力の定着と向上を図るとともに、生徒の幸せな将来の生き方に向けたキャリア教育を実践する学校 (3)主体性を育て心身の健康増進を図り、安全安心で学び合える学習環境をつくる学校 (4)地域と積極的な交流を図るとともに、地域の活性化に貢献する学校 (5)地域の声を受け止め、時代に適応し将来へとつながる教育改革を進める学校	3 学校経営方針 (1)「いのちをつなぐ」人づくり 自尊感情を高め、多様性や個性を受け止めるとともに、よりよい人間関係を構築し、他者の生命や生き方を尊重し次世代に繋ぐ人づくりを行う (2)「学びを生かす」人づくり 自ら考え、主体的に判断し、柔軟かつ確に課題解決できる人、多様な他者と協働しながら新たな価値を生み出し、学びを幸せな生き方・社会に生かす人づくりを行う (3)「地域をつくる」人づくり 地域を愛し、地域の課題を主体的に捉え、地域の人と協働し、地域の幸せな未来と地域の発展に貢献できる人づくりを行う
---	--	--

【評価】 A:達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

重点目標	具体的対応と指標・基準等	評価	成果・課題・次年度への取り組み	学校関係者評価	
				評価	意見・要望等
(1)「いのちをつなぐ」人づくり					
① 互いのいのちを尊重する	○いじめの絶無。 ○良好な人間関係の構築。	B	年2回のいじめアンケート(県への報告3件)及び日々の教育活動の中で、いじめ等の兆候をいち早く察知し、組織的に対応する取組みを行った。次年度も、生徒・保護者・学校が緊密に連携しながら、充実した学校生活を送ることができるような指導・支援を行っていきたい。	A	具体的な防止への取組み及び発生した際の組織的な対応がとられている。
② 基本的生活習慣を身に付け、社会の一員としての自覚を深める	○年間出席率99.0% ○ふれあい指導(年4回)の実施 ○SNS関連の問題行動の根絶 ○社会の仕組み(選挙制度・租税)を理解する取組みを実施 ○学校行事や生徒会活動への積極的な参加	B	出席率98.0%(2学期末現在)。全体として、将来の社会人として必要な様々な意識を向上させる取組みを予定通り進めることができた。次年度も、基本的生活習慣定着に向けた、様々な取組みを推進していききたい。	B	社会に出るための基本的な知識及び技能とともに、人間関係の構築にもより力を入れた教育活動をしていただきたい。
(2)「学びを生かす」人づくり					
① 将来にわたって活用できる知識・技能を着実に習得する	○授業評価アンケート(年2回)の実施 ○一人一台端末を活用した教育の実践 ○ICT活用研修会(年2回)及び研究授業の実施 ○探究的な学び(課題研究など)の実践	B	予定通り実施することができた。ICT(主にGoogle)を活用した指導については、指導者により差がある状況であり、「授業力の向上」も含め、今後も研修会等を通じて周知及び実践を促していききたい。	B	教科内・学校内はもとより、他校の先進的な事例を積極的に取り入れたり、同じ課題を持つ学校同士で情報共有や研修などの機会を持っていたきたい。
② キャリア教育を充実させる	○各学科ごとの産業視察等の実施。 ○2年対象インターンシップの実施。 ○資格取得及び各種検定の合格率向上。 ○教職員対象の外部研修への参加推進。	B	各種検定の合格率にやや未達成が見られた部分もあったが、全体としてキャリア意識を向上させることができた。次年度は、初期段階(1年次)からの職業意識を持つことができるような取組みを行いたい。	B	インターンシップが、将来の自分の進路につながるような継続的な指導をお願いしたい。初期段階での指導は大事であり、1年前半から進路意識を持たせるべきだと思われる。
③ 主体的・対話的で深い学びを推進する	○公開授業と授業研究の実施(年2回)。 ○課題研究発表会及び学習成果発表会の開催。	A	予定通り実施できた。発表会等における生徒の主体的な学びは大きく向上したと思われる。次年度もさらに質の高い取組みを進めていききたい。	A	さまざまな研究発表会のさらなる質の向上を望む。
(3)「地域をつくる」人づくり					
① 郷土・地域を理解する	○地域課題をテーマにした校内における課題研究等への取組み。 ○外部団体(「新庄・ジモト大学」等)と連携した実践的な取組み。	B	進路指導及び専門学科における取組みを予定通り行った。「新庄・最上ジモト大学」とは、学年単位の探究活動の中で、連携をさらに推進していききたい。	B	「新庄・最上ジモト大学」のコンテンツを、校内の探究活動に積極的に入れていただきたい。
② 郷土・地域と連携する	○PTA主催「挨拶運動」の実施(年2回) ○PTA広報誌「神室峰」の発行(年2回) ○専門学科通信「未来の風」の発行(年4回) ○ホームページの更新(年50回以上) ○保護者への情報提供(さくら連絡網・学年通信等)	B	予定通り実施することができた。次年度は、各広報誌の発行と並び、ICTによる家庭・地域への迅速な情報提供を通じて連携を深めていききたい。	B	情報発信は学校の魅力化向上の上で大事であり、中学生・保護者・地域の人たちにわかりやすく魅力を伝えられるような広報のあり方を検討していただきたい。
③ 郷土・地域産業に貢献する	○「社会人講話」の実施。 ○地域や企業等と協働した課題研究(フューチャープロジェクト等)	A	各取組みを通じて、本校を支える地域・企業との結びつきをより深めることができた。課題研究に関しては、実際に地域振興につながる具体的な取組みを次年度も進めていききたい。	A	地域・企業の優れた人材と直に触れ合えるような機会をこれからも提供していただきたい。
(4)「学校経営」					
① 魅力ある学校づくり	○ICTを活用した本校の魅力発信 ○特別活動の充実	B	ホームページやSNSを活用し、学校説明会や個別相談等で中学生の理解促進を図った。次年度以降も取組みを継続していききたい。	B	個別相談会で中学生や保護者等が本校に求めているものを丁寧にくみ取ることが重要である。
② 次代に向けた学校づくり	○企業との共同研究を通じた先端の専門技術の習得 ○農・工・商各学科それぞれの特徴を生かした学校づくりの構築	B	予定通り実施することができた。生徒の進路意識・職業意識をさらに高めるため、特に外部(地域企業等)との連携を深めていききたい。	B	農・工に加え、ビジネスモデルとしての商業科の重要度もより高まると思われる。
③ 個に応じた教育支援体制を充実	○「ABC委員会」及び「ケース別検討会」の設置 ○生徒・保護者との積極的な面談 ○ICTを活用した個別最適な授業の実践。	B	生徒の様々な支援を継続して行うため、必要に応じて学年・各部・各学科等が連携して推進する体制を構築していききたい。	B	組織的な対応と、悩みを抱える生徒へ「寄り添う」姿勢を今後も継続していただきたい。
④ 生徒・教職員一人一人の多様な幸せとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイング(Wellbeing)の理念の実現を推進	○職員健康診断における精検受診率100%。 ○ICT活用スキルの向上を目指した研修会の開催 ○ICTの活用による業務の効率化。 ○防災意識の向上(避難訓練及び安否確認訓練)	B	時間外勤務時間は昨年度より全体的に減少しており、次年度も、休暇の積極的取得やICTの活用による業務削減をさらに進め、働き方改革が目に見えるような取組みを推進していききたい。	B	最も重要な事項であり、組織として、個人としてのウェルビーイングについて、常に情報共有を図っていただきたい。